

# 中国語「離合詞」の教授法に関する研究

鄧 凌志

## アブストラクト

「離合詞」の使い方は中国語学習者の難点である。言語学者の饒勤と楊耀が行った外国人学習者の「離合詞」習得状況調査から、基本的な離合詞の使用ルールは把握できているものの、文の中で使う場合多様な拡張形を使いこなせる学習者が少ない、という実態がうかがえる。

「離合詞」の拡張形式には共通のルールがあるが、特例の拡張形態も多数存在する。教師は両者のバランスをよく考えたうえで教授内容を決める必要がある。そして初級段階で「離合詞」の基礎を教えたあと、中・上級段階ではその豊富な拡張形式を取り込みながら組織的に詳しく解説することが重要である。

本稿ではAPU中国語学習者の「離合詞」習得状況と中国語教材に出てくる離合詞用例を踏まえて、「離合詞」の教え方と教材面の改善について若干の意見を述べたい。

キーワード：キーターム：離合詞、拡張形、動賓フレーズ、目的語、形態素

## 1. 初めに

「離合詞」とは語義上普通の単語のように分離できなく、形態的には連語（フレーズ）と同様に拡張可能な中国語の「動詞+目的語」（V+O）構造である。

現代中国語に多数存在する「游泳」（泳ぐ）・「洗澡」（お風呂に入る）・「发烧」（熱が出る）・「照相」（写真を撮る）などのような言葉を構成する二つの造語成分の真ん中に他の修飾成分を入れることも出来るし、その二つの造語成分の順番を逆にすることも可能であるので、連語（フレーズ）の性質を持っていると考えられる。一方、「離合詞」を構成する二つの造語成分のコンビネーションが定着されていて、特定の語義を有することから、「単語」としか認められない。

「離合詞」の内部構成を見れば、「動詞+賓語（V+O）」・「動詞+補語」と言う二つのタイプがある。その中で、「動賓式V+O離合詞」（離合動詞とも言う）は使い方が複雑で、語学面の情報伝達機能から見ても極めて重要な機能性を果たしているので、「離合動詞」を「離合詞」の代表として論じる語学者が多い。小論はこの「動賓式離合詞」即ち「離合動詞」を中心に、まず先行研究を紹介する。そして立命館アジア太平洋大学（以下は「APU」と略す）中国語学習者の習得状況を踏まえて、中国語教育の重要な一環である離合詞教育の現状及び当面の問題点を分析し、最後に離合詞の教授法を模索したいと考えている。

## 2. 先行研究

### 2.1 離合詞の属性

前述したように、離合詞の特殊性は、1940年代から多くの語学研究者の関心を引き付けてきた。

陳望道（1940）は中国語の「上当」（騙される）・「捣乱」（悪戯をする）・「生气」（怒る）を代表とする単語の真ん中に「你」、「我」、「他」、「什么」などの成分を挿入できることを最初に指摘した。張寿康は「離合動詞」と言うコンセプトを『略論漢語構詞法』（1957）の中で始めて提言した。「合わせて使う（例：洗澡）と「単語」であり、分けて使えば（例：洗一个澡）連語になる」と言う張氏の主張に対して、「語彙論的に見れば「睡觉」、「打仗」は単語であるが、文法

の視点から見ればそれらを連語と看做すしかない」と呂叔湘(1974)は異議を唱えた<sup>1</sup>。こうして、「離合詞」が単語であるか連語であるかについては1990年代になっても依然として定論が見られなかった。

張宝林、林漢達、趙淑華、饒勤などの語学研究者は、「離合詞」が「離」「合」の状態に関わらず、常に「単語」の部類に入るべきだと主張した。林漢達も、「洗澡」のような単語を「結合動詞」と呼ぶ<sup>2</sup>。というのは、「澡」は「洗」の動作に補足する働きをし、その名詞成分が対象語ではない。この意味で「洗衣服」のような「動賓フレーズ」とは根本的に違う、と理解されるからである。

一方、単語とフレーズとの区分にはもともと曖昧な部分があることに気付いた范晓、史有为、李临定らは離合詞を単語とフレーズの間の中間形態と見なし、それを「擬似フレーズ」と呼ぶ<sup>3</sup>。

筆者自身は「離合詞は単語とフレーズの中間形態」という考え方に賛成する。全体的に見れば、離合詞を構成する動詞成分と名詞成分の関係がフレーズのようにさらに拡張する形態があるが、その造語成分は動賓フレーズほど自由度が高くない。他方、単語のように全体的にまとまった語義を持つものの、単語のように拡張不能なものでもない。従って、「離合詞」を単語とフレーズのいずれか一方に部類することは偏った考え方だと思われる。

離合詞の属性に限らず、離合詞の認定方法、即ちどんな「V+O」コンビネーションを「離合詞」と認定出来るかについてもまだ一定したルールがない。劉廉力の『HSK 漢語 8000 詞詞典』は「離合詞」を322語指定しているが、一部の研究者から反対の声が上がっている。一方、『現代漢語詞典』で指定された「離合詞」3184語の中にも離合詞ではない語が入っている、と指摘する学者は少なくない。

## 2.2 離合詞の認定方法

どんな「V+O」が離合詞であるかに関してはまだ明確な判断基準が確立されていない。語義上分離できないという性質を認定の基準とする「語義認定法」やVとOの間に別の成分が挿入できるかどうかを基準とする「拡張認定法」があるが、離合詞認定の場合どちらも万全なものとは言えない。

趙淑華、張宝林(1996)は「離合詞は連語ではなく単語と認められる。しかしそれがさらに拡張することが可能なので、特殊な単語と見るしかない」と「離合詞」の属性を「単語」とする。そして『漢語水平詞匯与漢字等級大綱』に載せられた動詞3590語の中から「離合動詞」を355語指定し、それに基づいて「離合詞」の認定基準を下記の4通りとした。

### 1) 拘束形態素の有無

単独で機能性を発揮できない拘束形態素は、もう一つの(特定された)形態素と組み合わせられて始めてまとまった語義を持つようになる。こう言う「V+O」の組み合わせは文の中で「単語」として機能するので、単語としか認められない。但し、それがさらに拡張できるので「特殊な単語」でもある。

### 2) 語義的に分離できない「V+O」組み合わせ

特定の動詞的造語成分が特定の名詞成分と組み合わせられて特定の意味を持つ単語になる場合、その単語は「離合詞」である。

「毕」・「叹」・「聊」・「起」などの動詞成分は名詞成分の「业」・「气」・「天儿」・「哄」などとし組み合わせられず、「毕

<sup>1</sup> 呂叔湘(1984: 51)『汉语语法分析问题』, 商务印书馆

<sup>2</sup> 饒勤(1997: 32)「离合词的结构特点和语用分析——兼论中高级对外汉语离合词的教学」, 『汉语学刊』1997年第1期。

<sup>3</sup> 范晓(1981)怎样区别现代汉语的词同短语 《东岳论丛》第四期

業」(卒業する)、「叹气」(嘆く)、「聊天」(お喋りする)、「起哄」(野次る)という離合詞になる。

反対に「眠」・「殃」・「光」・「旱」などはそれぞれ動詞的造語成分「失」・「遭」・「沾」・「抗」と組み合わせて始めてその特定の語義を持つようになる。

### 3) 動詞と目的語の関係として扱えない「V+O」構造

「鞠躬」(お辞儀する)・「游泳」(泳ぐ)・「睡觉」(寝る)などの「V+O」構造の中で、名詞成分の「躬」・「泳」・「觉」は動作・行為の対象としての「目的語」として扱いにくい。こういう特徴を持つ単語は必ず「離合詞」の部類に入る。

つまり、「動詞」と「目的語」の関係ではない「V+O」構造は離合詞と認定できる。

### 4) 拡張が可能で、名詞や形容詞の属性を掛け持つ「V+O」構造

「签名」・「编号」・「导游」・「存款」などのように名詞・動詞の属性を掛け持ったり、「放心」「争气」「吃惊」などのように形容詞と動詞の属性を掛け持っている場合、その「V+O」構造は「離合詞」の部類に入る。

上記の4通りの基準のいずれかに当てはまる「V+O」構造が「離合詞」と認められる、と趙・張(1996)は主張している。

中国語の単語はふつう文成分の最小単位として、その真ん中に別の成分を挿入することが出来ない。例えば「出发」、「攀登」は「出了发」、「攀一次登」という形が取れない。

一方、動詞(V) + 賓語(O)の組み合わせは「動賓短語」(動賓フレーズ)と呼ばれ、「動」と「賓」の間に別の成分を入れることが出来るし、その位置も比較的に自由である。

例：(1) 洗(V) + 衣服(O)

⇨ 洗(V) + 三件(数量詞) + 衣服(O)

⇨ 洗(V) + 了 + 三件(数量詞) + 衣服(O)

(2) 「衣服洗好了吗？」(服は洗いましたか?)

但し、この場合「動」と「賓」はそれぞれ独立した語義を持つものであり、語義上の依存関係は殆ど見られない。

「離合動詞」の場合は、「V+O」の形を取っている上、「V」と「O」の間に別の成分を入れることも出来る。

例：「洗澡」：「洗三次澡」、「洗了澡」

そして「洗」と「澡」の間に語義上の依存関係が見られる。すなわち、「洗澡」はまとまった語義を持った単語で、語義的にこれ以上の細分化は不可能である。

「離合詞」は「形態上分離できるが、語義上はこれ以上細分できない」という単語とフレーズの一つの中間形態である。しかし、「V」と「O」の相互依存関係がどの程度まで認定できるかは問題である。趙・張(1996)は、「V」「O」ともに現在の語義では他の造語成分と組み合わせることが出来ないことがその依存関係の証拠だと言明しているが、それに賛成しない学者もいる。

## 2.3 離合詞の分類研究

「離合詞」によっては、二つの造語成分の「離」の程度に差が見られる。例えば、通常「洗了一次澡」(一度お風呂に入った)と、「洗」と「澡」の間に他の成分を入れることができるだけでなく、「澡洗了没有？」(お風呂に入ったか?)のように「洗」、「澡」の順番を逆にすることも可能である。さらに「你的发是什么时候理的」(髪の毛はいつ刈ったか)のように順番を逆にすることが出来るだけでなく、多くの成分を「V」と「O」の間に入れられる離合詞の

拡張形もある。一方、「留神」（気をつける）の場合、「留」と「神」を逆にすれば不自然になるし、間に入れる文成分も非常に限られている（「留点儿神」しかない）。

離合詞の「離」の限度をどう把握するかは学習者にとって最も難しい点である。一方、これをめぐって学界の意見もさまざまである。

麻彩霞は離合詞をその内部構成の特徴によって以下の通りに分類している<sup>4</sup>：

(1) 拘束形態素+拘束形態素

例：创业（起業する） 劳驾（お邪魔する） 示威（示威する）  
鞠躬（お辞儀する） 宣誓（宣誓する） 注意（気をつける）

(2) 拘束形態素+自由形態素

例：当心（気を使う） 消毒（消毒する） 酗酒（お酒に溺れる）  
着凉（風邪を引く） 旷课（授業をサボる） 理发（理髪する）

(3) 自由形態素+拘束形態素

例：走私（密輸する） 帮忙（助ける） 睡觉（寝る）  
出院（退院する） 打架（喧嘩する） 订婚（婚約する）

(4) 自由形態素+自由形態素

例：吃亏（損をする） 听话（言うことを聞く） 请假（休みを取る）  
签名（サインする） 跳舞（ダンスする） 念书（読書する）

(1) のように、両方とも拘束形態素である場合、離合詞の「離」の特徴が弱くて「単語」の性質が強い。逆に (4) のような両方とも自由形態素である場合、その拡張（変形）の形式が比較的・多様でむしろ「連語」の性質が強いことが分かる。

中国語を母国語とする人は「離合詞」と言うコンセプトを知らないまま自然にそれを使いこなせるが、外国人学習者にはその使い方がなかなか身に馴染まない。その原因として、(1) 教材における離合詞関連内容の不足、(2) 教師が重視していないこと、(3) 学習者の習得方法に問題があること<sup>5</sup>、などが挙げられる。

### 3. APU の中国語教材に於ける離合詞の使用状況

APU の言語教育センターでは中国語を含む6種類のアジア太平洋言語（AP 言語と略す）科目を専修科目としている。中国語は「CHINESE 1」～「CHINESE 4」の4段階に分かれていて、計4学期にわたって履修する。

現在 APU の「CHINESE」1～4 で使用している教材は下記の通りである：

「CHINESE 1」：張美霞・陳薇/著 『加油！中国語』

「CHINESE 2」：楊凱榮・張麗群/著 『実力のつく中国語』

「CHINESE 3」：杉野元子・黄漢青/著 『大学生のための現代中国語 1 2 話』

「CHINESE 4」：張乃方/著 『中国語実習コース』

<sup>4</sup> 麻彩霞 (2005 : 118) 「浅析动宾式离合词」, 『内蒙古师范大学学报』2005 年第 6 期。

<sup>5</sup> 崔广利 (2010) 「对外汉语教学中的离合词研究」, 『语文学刊』2010 年第 16 期。

前述の趙・張(1996)の離合詞判定基準に基づいて筆者は現行の教材に現れる離合詞とその拡張形の用例を纏めてみた。結果は次の通りである。

**CHINESE 1**

合影(記念写真を撮る)、请假(休みを取る) 拍照(写真を撮る) 抽烟(タバコを吸う)  
 毕业(卒業する) 游泳(水泳する) 起床(起きる) 见面(会う)  
 放心(安心する) 上网(インターネットにアクセスする) 开玩笑(冗談を言う)  
 睡觉(寝る) 开车(運転する) 侃价(値段交渉する) 打折(割引をする)  
 迟到(遅刻する)  
 計 16 語

**CHINESE 1 の教科書に出る離合詞拡張形の用例：**

1	第 10 課 本文 给您打八折，二百一十六块。 (二割引きですので、二百十六元になります)
2	第 12 課 本文 你帮我请一下儿假，好吗？ (休みを取りたいから、(先生に) よろしく伝えてくれない？)
3	第 14 課 本文 山本唱歌唱得不错。 (山本さんは歌がじょうずです)
4	第 14 課 本文 我起床起得很早。 (私は朝起きるのが早いです。)

**CHINESE 2**

当面(面と向かって) 担心(心配する) 下棋(碁を指す) 分手(分かれる)  
 讨价(売り手が商品の値段を言う) 还价(買い手が売り手の言い値を値切る)  
 住院(入院する) 开车(運転する)  
 計 8 語

**CHINESE2 の教科書に出る離合詞拡張形の用例：**

1	第 8 課 本文 星期天你能陪我上趟街吗？ (日曜日は私と街へ行かない？)
---	---

2	第9課 本文 车好骑多了。 (自転車はだいぶ乗りやすくなった。)
3	第12課 練習 你别开着车打手机, 太危险。 (運転しながら電話をかけないで、危ないから。)
4	第14課 本文 得住几天院。 (数日間入院しなくちゃ。)
5	第14課 本文 明天就是发高烧, 也要去考试。 (明日高熱が出て、試験を受けなければならない。)

CHINESE 3

签字 (サインする)      捐款 (お金を寄付する)      出头儿 (すぎ)      请客 (おごる)  
排队 (列に並ぶ)      入座 (着席する)      治病 (病気を治す)      出名 (有名になる)  
上街 (町に出る)      发烧 (熱を出す)      发财 (金持ちになる)      抬头 (頭を上げる)  
种地 (野良仕事をする)      露面 (顔を出す)  
計 14 語

CHINESE3 の教科書に出る離合詞拡張形の用例 :

1	第5課 本文 本周, 我一共请了六次客。 (今週は全部で六回ごちそうした。)
2	第7課 本文 过去买东西经常要排长队。 (以前は物を買うときにはしばしば長い列を作って並ばなければならなかった。)
3	第6課 本文 如果我不是医生的话, 我一定会劝你, 你的病别治了。 (もし私が医者でないならば、私はきっとあなたに病気を治さないように、と勧めます。)
4	第10課 本文 在日本出了名的东西, 在中国不一定有名。 (日本で有名になったものが、中国では必ずしも有名だとは限らない。)
5	第11課 本文

<p>家境富裕の学生，在周末经常约朋友，逛逛街，听听音乐会。</p> <p>(家の暮らし向きが裕福な学生は、週末よく友達を誘い、街をぶらついたり、コンサートを聴いたりする。)</p>
---

CHINESE 4

散步（散歩する） 叹气（嘆く） 结婚（結婚する） 挂号（受付する）  
 鞠躬（お辞儀する） 红脸（顔を赤らめる） 配药（薬を調合する） 举手（手を上げる）  
 打牌（トランプで遊ぶ） 生气（腹を立てる） 毕业（卒業する） 洗澡（お風呂に入る）  
 看病（医者に診てもらう） 担心（心配する） 去世（亡くなる） 逛街（町をぶらつく）  
 退休（定年退職する） 调职（転職する） 住院（入院する） 离婚（離婚する）  
 贷款（ローンを組む） 提款（現金をおろす） 受罪（苦勞する） 打伞（傘をさす）  
 买菜（食材を買う） 伤脑筋（悩む） 伤心（心が傷つく） 招手（手で招く） 退学（学校を中退する）  
 計 29 語

CHINESE4 の教科書に出る離合詞拡張形の用例：

1	<p>第4課 本文</p> <p>一个人去看看电影、散散步。</p> <p>(一人で映画を見に行ったり、散歩したりする。)</p>
2	<p>第6課 本文</p> <p>桑原低着头，红着脸，样子很不好意思。</p> <p>(桑原さんはうつむいて顔を赤らめ、とてもきまり悪そうな様子だった。)</p>
3	<p>第6課 本文</p> <p>桑原停了一下，忽然抬起头来，说明了自己常常迟到的原因。</p> <p>(桑原さんは言葉をちょっと切ってから、急に顔をあげて、自分がよく遅刻するわけを話し始めた。)</p>
4	<p>第6課 例文</p> <p>山本突然举起手来说：“老师，我有问题。”</p> <p>(山本君は急に手を挙げて、「先生、質問があります」と言った。)</p>
5	<p>第10課 本文</p> <p>他先到挂号处挂了号，然后在候诊室里等着。</p> <p>(彼は受付に申し込んでから、待合室で待っていた。)</p>
6	<p>第10課 本文</p> <p>等到护士来量体温的时候，才知道自己发高烧。</p> <p>(看護婦が体温を測りに来たとき、すでに高熱が出ていることを知っていた。)</p>
7	<p>第10課 本文</p>

	<p>护士给他打了两针，一针退烧，一针消炎，另外还配了两天的药。 (看護婦が解熱と炎症を治すための注射を2本打って、さらに薬を2日分作った。)</p>
8	<p>第13課 参考文 由于公司倒闭而失业，就开始自暴自弃，酒也喝，牌也打。 (会社が倒産して失業してからやけになって、酒は飲むし、麻雀もするようになった。)</p>
9	<p>第15課 本文 每次谈到这个问题总是叹着气说：“哎，要是庆子能回来多好！” (その話になるときまってため息をつき、「ああ、慶子が帰れたらいいのに」と言っている。)</p>
10	<p>第17課 本文 无论打雨伞还是穿雨衣，对上班上学的人来说，都是很麻烦的事。 (傘をさすにせよ、レインコートを着るにせよ、通勤や通学をする人にとって面倒くさいことです。)</p>

離合動詞に関する上記の統計から見れば、中国語中・上級を初級に比べると離合詞の数が大幅に増えている上、その拡張形の用例の数も拡張形式も豊富になっていることが分かる。一方、新出単語として CHINESE 1～4 の教材に載っている離合詞 67 語 (ただし、異なり語数) に対して、その拡張形の用例は合計 24 箇所にすぎない上、拡張形式が単一的で、離合詞の拡張形に関する練習も見られない。全体として、離合詞に関する教授内容の不十分さが感じられる。

#### 4. 現在の離合詞教授の難点

中国語学習者が教科書で習得する離合詞「離」の拡張形が非常に限られているにもかかわらず、拡張形の「ルール」を掴もうとする傾向があるが、実際は離合詞の拡張形には「ルールを外れる」場合が多いので失敗することが少なくない、と崔広利 (2010) が述べている。

ふつう離合詞が「合」の状態では、明確な訳語が存在しているところから外国人学習者には理解しやすい。そして、この経験が後に行われる「離」の学習の基点となりがちである。「洗澡」を例にとると、学習者はまず「お風呂に入る」という語義をつかみ、ついで「洗了澡」(お風呂に入った)・「洗了两次澡」(二回お風呂に入った)という拡張形の習得に向かうのである。問題は前文で述べたように、普通の中国語教材では、「合」の形は比較的よく採用されている一方で、「離」に関する練習や解説が殆ど見られないことである。

APU 正課 CHINESE 4 の上級学習者を CHINESE 2、3 の中級学習者と比べると、離合詞の運用面では殆ど能力差が見られないが、筆者が CHINESE 4 の学習者を対象に調査したところでは、「我昨天见面他了」、「他想结婚我」、「我今天五个小时打工了」など CHINESE 2～3 の段階で多発する間違いが依然比較的多く発生する。

離合詞のどの部分が難しいか、教える際どんなところに気を付けなければならないかに関して、研究者たちの先行研究を踏まえて下記の通りまとめてみた。

##### 4.1 離合詞の拡張形

鏡勤 (1997) は『中高级对外汉语教学大纲』(1995 年版) に準拠した各種教材から「離合詞」を選び出して上級学習者



に作文をさせている。それに先立って、離合詞を用いるとき気をつけなければならないことは何かと尋ねたところ、ほとんどの学習者は「離合詞」の後に対象語（賓語）が来てはいけないと答えたと言う。また、それより複雑な拡張形を用いて文を試作した学習者は一人もいなかったとも報告している<sup>6</sup>。

中・上級段階に於ける離合詞教育の不十分さを裏付けるこういう例は、今日の中国語教育にも依然見られる。

楊耀（2010）が南京大学海外教育学院で中国語を二年履修した学習者を対象に離合詞の習熟度をアンケート調査した結果、表1の通り、「離合動詞+対象語」の間違いが僅か11%であったのに対して、時間・数量補語や「着」・「了」・「过」などの助詞と併用する際語順を間違えた比率はいずれも非常に高いことが分かった<sup>7</sup>。

表1

挿入する部分	間違いの比率	間違いの例
「着」	77%	他生病着来参加会议。
「了」	44%	这次 HSK 考试我已经报名。
「过」	66%	他曾经给老师送礼过。
時間補語	77%	我算倒霉了八辈子。
数量補語	83%	当听到这个消息的时候，他吃一大惊了。
対象語の位置	11%	他不生气我了。
趨向補語	66%	这件事我大概帮忙不上。
人称	44%	等一会儿，你就能见面到张老师了。

十数年を隔てたこの二つの調査は、中国語「離合詞」教育の実情をある程度反映している。即ち、離合詞運用の基本的ルールは覚え込んでいても、拡張形態の全てを自由に使いこなせる学習者はごく少数である。

#### 4.2 離合詞の判定

離合詞であるかどうかの判定に関しては、趙淑華・張宝林（1996）が作成した4つの判定基準があるが（上述）、それに異議を唱える研究者もいる。どのようなV+0構造が離合詞であるかに関しては研究者たちの意見がまだ統一されていない。例えば「握手」は李清华（1983）、吕文华（1994）では外国人学習者による「離合詞」誤用の典型例として言及されているが、それが単純な「V+0」フレーズにすぎないと主張する学者もいる。「吃饭」、「看病」なども同様である。前述のように、もともと「離合詞」の判定方法をめぐっては学界でも論争が続いているのであり、定説のない知識を学習者に教えることは慎まねばなるまい。

#### 5. 離合詞の教授方法に関する見解

離合詞の教え方に関しては一部の拡張形だけを対象とする簡略化傾向、そしてすべての拡張形式を一気無差別に教え込む複雑化傾向が見られる、と既に今まで多くの研究者に指摘されてきた。

<sup>6</sup> 饶勤（1997：34）「离合词的结构特点和语用分析—兼论中高级对外汉语离合词的教学」、『汉语学习』1997年第1期。

<sup>7</sup> 楊耀（2010）「HSK 词汇大纲及语料库的离合词研究」、『语言测量学与汉语水平考试研究』2010年第11期。

まず、離合詞を教える時、共通のルールを求めるよりケースバイケースの指導・練習が大切だと主張する学者がいる。謝昉（2007）は「外国人学習者を対象として中国語の離合詞の説明をする時、全ての離合詞に当てはまる文法ルールを学習者に提供するように試みる傾向がある。そもそもこれは改善しなければならない非現実的な考え方である。」<sup>8</sup>と、「離合詞」の共通性を否定している。

しかし筆者は、「離合詞」の拡張形式が複雑多様であるのは事実であるが、あくまである程度の共通的ルールが存在している以上、それを活用しないで全ての離合詞を特別例として説明すると、学習者に負担をかけすぎることになると考えている。

一方、張起旺（2001）は『日本人が間違えやすい中国語』の中で中国語の誤用例を分析する際、「谈话」という言葉を例に挙げ、「目的語を伴うことができない」「動態助詞「着」・「了」・「过」と時間・数量を表す補語を挿入することができる」<sup>9</sup>と、せっかく中国語「離合詞」の特徴に言及しながらも、「谈话」が自動詞なので目的語をつけることが出来ないと認識している。結局、「離合詞」を一つのカテゴリーとして扱っていないのである。実際中国語には「離合詞」が少なくとも数百語存在するので、「谈话」だけを特別例と扱うのは少し問題であると思われる。

興水優・島田亜実の共著である『中国語わかる文法』（2009）では離合動詞に関して「動詞と賓語の間にほかの成分が入り、連語と同じになる」<sup>10</sup>と述べている。この著書では「散歩」・「见面」・「跳舞」・「点头」・「理发」という5語を例に、離合詞の拡張形を説明しているが、いずれも簡単な拡張形のタイプにとどまっている。

離合詞の拡張形に関する数多くの先行研究の中から下記の内容を集めて、離合詞の教授面における参考とさせていた

## 5.1 離合詞拡張形式の共通特徴

### 1) 動態助詞の挿入

#### (1) 着

持続動作・状態を表す「着」は、「離合詞」の真ん中に入れて、「V+着+O」と言う形になる。この場合の「O」は付随の状態であるので、「V1+着+O+V2」の構造で「他生着病来参加会议」になる。

「开着车打电话」（運転しながら電話をかける）、「打着伞走路」（傘をさして歩く）のような付随の状態の練習は大切だと思われる。

#### (2) 了

既に発生・完成した動作を表す「了」も「離合詞」の真ん中に入れて、「V+了+O」になる。例：我去年结了婚。（私は去年結婚した）

そして、「一連の動作（離合詞）が順次発生する」場合も、先に発生する動作は「V+了+O」の形を取る。

例：你先洗了澡再去睡吧（まずお風呂に入ってから寝よう。）

#### (3) 过

「今まで……の経験がある（ない）」と言う事実を述べる「过」も離合詞と併用する場合「V+过+O」の形態である。

例：我去年没生过病。（私は去年病気になったことはない）

<sup>8</sup> 謝昉（2007）「对外汉语教学中的离合词教学法研究」、『中国科教创新导刊』2007年第19期。

<sup>9</sup> 張起旺（2001：104）『日本人が間違えやすい中国語』、国書刊行会。

<sup>10</sup> 興水優・島田亜実（2009：254）『中国語わかる文法』、大修館書店、2009

全体的に見れば、動態助詞と離合詞との併用は「V+動態助詞+0」が基本であり、ほとんど例外が見られない。

## 2) 時間と数量の挿入

### (1) 時間フレーズ

時間フレーズを離合詞と併用する場合、「離合詞」の動詞部分を一度繰り返し、「V+0+V+時間フレーズ」と「V+時間フレーズ+0」の2タイプがある。

例：他上网上了一个小时/他上了一个小时网。(彼はインターネットを一時間使った)

### (2) 数量フレーズ

数量フレーズと離合詞の併用は、「V+数量フレーズ+0」と言う形になる。

例：我跟他见过三次面。(彼と三回会ったことがある。)

(1)、(2)の例文のように、時間/数量フレーズと離合詞を併用する時、動態助詞も欠かせないことに気をつけたい。「動態助詞+時間(数量)フレーズ+離合詞」と言うコンビは中国語の会話文でよく見られるので、筆者の考えでは、これが離合詞教授の最大なポイントであり、学習者に繰り返し練習させたい。

## 3) 程度補語の挿入

程度補語を離合詞に挿入する時、「V+0+V+時間フレーズ」の形を取る。

例：小王唱歌唱得很好。(王さんは歌が上手だ。)

## 4) 動詞の重ね方：

一般の動詞の重ね方「ABAB」に対して、「離合詞」の重ねは「AAB」(動作部分だけの繰り返し)である。気をつけたいのは、「毕业」・「结婚」・「离婚」などの離合詞は「AAB型」の重ね型がないことである。

戴一浩(1990)は、AAB重ね型の使用は持続的動作の場合に限るので、「毕业」・「结婚」などの瞬間的に完成するか、再度発生不能の離合詞には使えないことを指摘している。

APUのCHINESE 4中国語学習者も、ABAB型の一般動詞の重ね方には慣れているが、AABの重ね形の運用には弱いところがある。

## 5.2 離合詞拡張形の特殊ポイント

離合詞の拡張形式には、下記のように文法ルールに合わない特殊例も多くある。

特殊例1：「见面」A 见过一次面。(一度会ったことがある)

B 见过一面。

「睡觉」A 睡了一个觉。(ひと眠りをした)

B 睡了一觉。

A、B いずれの拡張形も成立するが、量詞の「次」「个」を省略した B のほうがより自然である。「吵一架」・「打一仗」・「鞠一躬」も同様である。さらに「好容易见到他一面」「一觉睡到天亮」などの場合、「次」「个」は使用してはならない。

他には、「吃一惊」(びっくりした)、「开了两刀」(二回手術した)、「让他一步」(彼に一步譲る)なども同じである。

特殊例 2 : 「上了他的当」(彼にだまされた)

「不要生我的气啦」(もう私のことで腹を立てないでください)

「这次沾您的光」(今回はおこぼれにあずかります)

「上当」・「生气」・「沾光」・「告状」・「造反」などの離合詞は、真ん中に「你的」「我的」「他的」を挿入することが普通であるが、同じ構造の「问好」の挿入成分は「的」が要らない。

一方、「劳驾」となると、挿入部分は「您」しかなく、「我」や「他」は使わない。

特殊例 3 : 「当着我的面，他说了很多感谢的话」(私に向かって彼はいろいろと感謝の言葉を述べた)

「当着……的面」の形は定型化されていて、「当了……的面」の言い方は存在しない。

微妙に文法ルールから外れるこのような特殊例は学習者に一々覚えさせるしかない。

こういう「離合詞」の特殊例は数少なくないので、繰り返し練習させないと学習者は覚えられない。

### 5.3 「離合詞」語彙の対義語、類義語に関する考察

「離合詞」のもう一つの特徴は、その類義語・対義語や構造の似た言葉も「離合詞」の部類に入ることである。

例えば：

原語	類義語	対義語	類似構造の言葉
吃苦	吃亏 受累		受罪
打架	打仗		吵架
操心	费心		
安心		担心	
散步	散心		跑步

しかしながら、下記の「離合詞」は、その類義語・対義語などが「離合詞」の特徴を持たない。

原語	類義語	対義語	類似構造の言葉
开车	驾驶	停车	
抬头		低头	举手

つまり、原語が離合詞であっても、その類義語・対義語などがいつも離合詞であるとは断定できない。

筆者の経験では、原語が離合詞なのでその類義語や対義語なども離合詞であると思いつく学習者がいる。現実には確かにこういう状況が多いが、この相関関係の絶対化を避けるように学習者に念を押ししたい。

## 6. 離合詞教授の過程に関する考え

林丹丹(2009)は、最初の段階で比較的「離」の特徴が弱い離合詞から導入し、論理的な説明、練習より生の会話練習で失敗と間違いの修正を積み重ねるほうが言葉の「センス」育成が早い<sup>11</sup>、と言う。

しかし一方で、周上之(2006)が指摘したように、初級レベルの「離合詞」は文の中で使う場合、往々にしてその活用(拡張)の形が複雑多様である<sup>12</sup>。つまり、中国語学習の初歩段階で接した「发烧」(熱を出す)、「放假」(休みに入る)、「请假」(休みを取る)、「睡觉」(寝る)、「洗澡」(お風呂に入る)など、基本語彙の部類に入る「離合詞」は、文の中での拡張の仕方が豊富で、一定のルールも存在しない。

例：1) 我今天洗了两次澡。(今日は二回お風呂に入った)

2) 澡洗好了吗?(お風呂は終わりましたが)

3) 这么热的天,他连澡也不洗就睡觉了,真不像话。

(こんな暑い日にお風呂にも入らずに寝てしまうとは何ということだ)

日常的な会話文ではあるが、学習者に説明する際「洗澡」の多様な拡張形を一々教えないといけないので、初級学習者を混乱させかねない。

これに対して、「撒谎」(嘘をつく)、「值班」(当番をする)、「决口」(堤防が一部決壊する)、「失约」(約束を守らない)のような上級レベルの「離合詞」は、その拡張形が非常に限られていて、把握しやすい。

### 例1 决口

1、去年河堤决了口。(この堤防は去年一部決壊した。)

2、河堤的口决了。(×)

3、去年这儿决了一次口。(△)

### 例2 失约

1、我昨天失了约。(昨日私は約束を守らなかった。)

2、你昨天失约我了。(×)

3、你昨天失了我的约。(×)

総じていえば、中国語学習の初級段階に触れる離合詞には驚くほど豊富な変形の可能性が秘められていて、逆に上級段階の「離合動詞」であるほどその使い方が簡単になると言えよう。従って初級段階で学習者がテキストに現れる離合詞の複雑で多様な拡張(変形)のタイプを1回で全て身につけるとするのはむしろ非現実的な望みではないであろうか。

<sup>11</sup> 林丹丹(2009:113)「探讨对外汉语离合词教学之现状与对策」,『漳州师范学院学报(哲学社会科学版)』2009年第2期。

<sup>12</sup> 周上之(2006:87)「汉语离合词研究」,上海外语教育出版社。

中・上級段階で振り返って「洗澡」「请假」などの複雑な拡張(変形)の仕方を学習者に詳しく説明する必要があると思われる。現実的に言っても、中・上級段階では離合動詞のより複雑な拡張形表現を使う必要性が徐々に増えるので、それを詳しく説明しないと学習者はいつまでも簡単なレベルでの理解に止まるであろう。

上に述べたように、離合詞の教授は一回で完成されるものではなく、周之上(2006)も学習者の中国語認知レベルの上昇とともにその拡張形を何回も振り返って説明する必要があることを主張している。離合詞の多元性によって、語法(語彙)の教授と文法の教授を合わせて教えることを旨にするとの考えも周が述べた。APUの中国語正課の場合も、CHINESE 1から4にかけて「離合詞」の使い方を漸次に学習者に解明することを怠ってはいけないと筆者は考えている。

例えば、CHINESE 1の第14課に現れる「離合詞」の拡張形用例：

- (1) 山本唱歌唱得不错。(山本さんは歌がじょうずです。)
- (2) 我起床起得很早(私は朝起きるのが早いです。)

「V+O+V+程度補語」という拡張形を中国語を始めて数か月の学習者に説明してもすぐには理解できないであろうことは想像に難くない。初級段階ではその意味が分かるだけでよく、中・上級段階で振り返って詳しく説明し、練習させるのが効率的だと筆者は考えている。

## 7. 終わりに

現代中国語における離合詞は単語と連語の特性を兼ねているので、単語とフレーズの「中間形態」とも言えよう。離合詞の拡張形式には共通の特徴もあるが、特別な拡張形態も多くあるので、学習者に教える時その共通ルールと特殊例のいずれか一方だけを強調することは間違いである。

一方、殆どの中国語教材では「新出単語表」に出た離合詞に対して特別標識をつけていない。APU正課の中国語教材もCHINESE 3の『大学生のための現代中国語 1 2話』だけは新出離合詞のピンインに「//」を付けている。そして「離合詞」関連の練習や解説も各種教科書には基本的に見られない。今後は教材面で「離合詞」関連の内容を充実していく必要があるのではないかと筆者は考えている。

## 参考文献

### 【中国語文献】

- 吕文华 (1994) 『对外汉语教学语法探索』 语文出版社  
 黄伯荣・廖序东 (1983) 『现代汉语』 甘肃人民出版社  
 刘彞主编 (2002) 『新实用汉语课本』 北京语言文化大学出版社  
 周之上 (2006) 『汉语离合词研究』 上海外语教育出版社  
 吕叔湘 (1984) 『汉语语法分析问题』 商务印书馆  
 饶勤 (1997) 「离合词的结构特点和语用分析-兼论中高级对外汉语离合词的教学」 『汉语学刊』 1997年第1期  
 范晓 (1981) 怎样区别现代汉语的词同短语 「东岳论丛」 第四期  
 麻彩霞 (2005) 「浅析动宾式离合词」 『内蒙古师范大学学报』 2005年第6期  
 崔广利 (2010) 「对外汉语教学中的离合词研究」 『语文学刊』 2010年第16期

- 楊耀（2010）「HSK 词汇大纲及语料库的离合动词研究」『语言测量学与汉语水平考试研究』2010 年第 11 期
- 谢昉（2007）「对外汉语教学中的离合词教学法研究」『中国科教创新导刊』2007 年第 19 期
- 林丹丹（2009：113）「探讨对外汉语离合词教学之现状与对策」『漳州师范学院学报（哲学社会科学版）』2009 年第 2 期
- 李春玲（2008）「现代汉语动宾式离合词及其离合槽研究」『长江学术』2008 年第 4 期
- 张淼淼（2007）「离合词研究综述」『忻州师范学院学报』2007 年第 2 期
- 王海峰・姚敏（2010）「半个多世纪以来的现代汉语离合词研究」『语文研究』2010 年第 3 期
- 王俊（2011）「现代汉语离合词研究」『湖北社会科学』2011 年第 5 期
- 杨蕾（2011）「离合词的成因和离析理据」『桂林师范高等专科学校学报』2011 年第 10 期
- 王会琴（2008）「离合词的研究及作用」『襄樊职业技术学院学报』2008 年第 7 期

**【日本語文献】**

- 楊凱榮・張艷群（2001）『身につく中国語』白帝社
- 董燕・遠藤光暁（1998）『話す中国語・基礎編』朝日出版社
- 興水優・島田亜実（2009）『中国語わかる文法』大修館書店
- 塚本慶一監修（2002）『2年生のコミュニケーション中国語』白水社
- 張起旺（2001）『日本人が間違えやすい中国語』国書刊行会